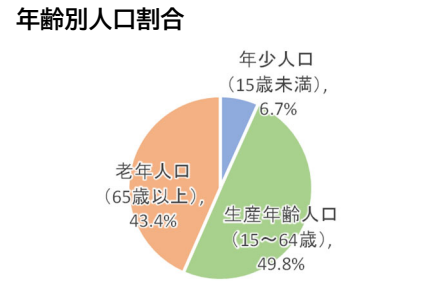


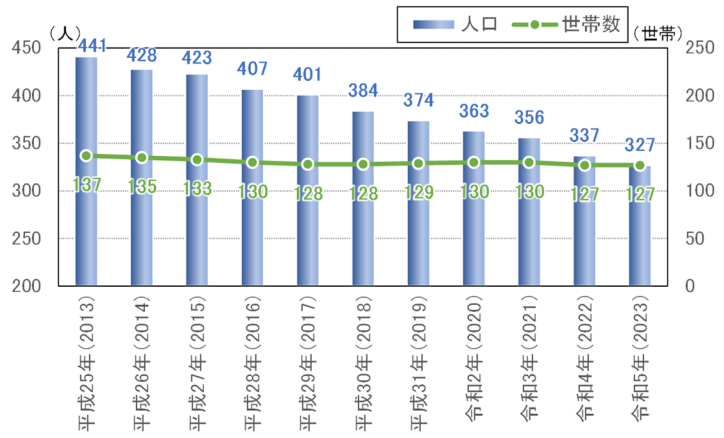
竹田 (たけだ)

人口・世帯数等 (令和5年4月)

人口	327人
世帯数	127世帯
高齢化率	43.4%



人口・世帯数の推移 (過去10年間)



区域の概要

立地 集落の東側を岸田川が北東に流れ、川に並行して国道9号(山陰道)が走る。東西に山が迫り、東側から南側に田畑が広がる。集落は山麓の傾斜地にあり、北側から下岡、中岡、上岡と区分される。北側の山を越えた田君川上流の後山も当地に属す。後山は山奥の狭い谷間の小集落であるが、江戸期の入会山論で知られる。

地名由来 「竹田」の地名の由来は、竹に関係したものや洪水被害をうけやすい所などがあるが、当地の地名由来は不明である。(「たじま地名考」日本海新聞)

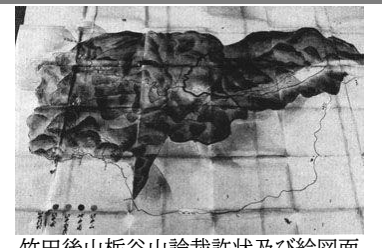
歴史等 近世の竹田村は、天正11年(1853)因幡国鳥取城主宮部氏領、慶長6年(1601)同国若桜藩領、慶長10年(1605)旗本宮城氏知行、寛永20年(1643)幕府領、寛文8年(1668)からは豊岡藩領となった。元禄17年(1704)の村書上帳(泰雲寺文書)では、家数65、人数345。天保5年(1834)の『但馬国郷帳』(天保郷帳)の村高は317石余。

明治22年(1889)温泉村の大字となり、昭和2年(1927)からは温泉町の大字となる。明治24年(1891)の戸数124、人口は男310・女326。式内社の面沼神社が位置し、宮司が境内のめめ池の小島に生えた茗荷でその年の吉凶状況を占うお茗荷祭りが伝わる。昭和20年代後半から20世紀梨の栽培に着手し、昭和60年(1985)には栽培面積約300a、約165tを産した。

これまで把握している文化財

文化財の件数 46件 (うち指定等文化財 2件)

大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等	
有形文化財	建造物	建築物	1	3	0
		石造物	1		0
		工作物・その他の構造物	1		0
	美術工芸品	彫刻	12	14	0
		絵画	0		0
		工芸品	1		0
		書跡・典籍	0		0
無形文化財	音楽	古文書・歴史資料・考古資料	1	0	1
		音楽	0		0
		演劇	0		0
		工芸技術	0		0
	民俗文化財	その他の無形文化財	0	2	0
		信仰の場	2		0
		祭具	0		0
民俗文化財	有形の民俗文化財	民具	0	2	0
		その他の有形の民俗文化財	0		0
		年中行事・民俗芸能	2		0
	無形の民俗文化財	民俗技術	0	8	0
		食文化	0		0
		民間話説・俗信	6		0
		その他の無形の民俗文化財	0		0
記念物	遺跡	散布地・集落跡・生産遺跡	8	17	0
		古墳・その他の墓	5		0
		城館跡・寺社跡	1		0
		街道・古道等	2		0
		戦争遺跡	0		0
	名勝地	その他の遺跡	1	0	0
		山岳・高原・丘陵	0		0
		海岸・海浜・島嶼	0		0
		河川・滝・溪谷・湖沼	0		0
		公園・庭園	0		0
動物・植物・地質鉱物	動物	0	2	0	
	植物	2		1	
文化的景観	地質鉱物	0	0	0	
	生活・生業・風土により形成された景観地	0		0	
伝統的建造物群	宿場町・城下町・農漁村等	0	0	0	



竹田後山栃谷山論裁許状及び絵図面



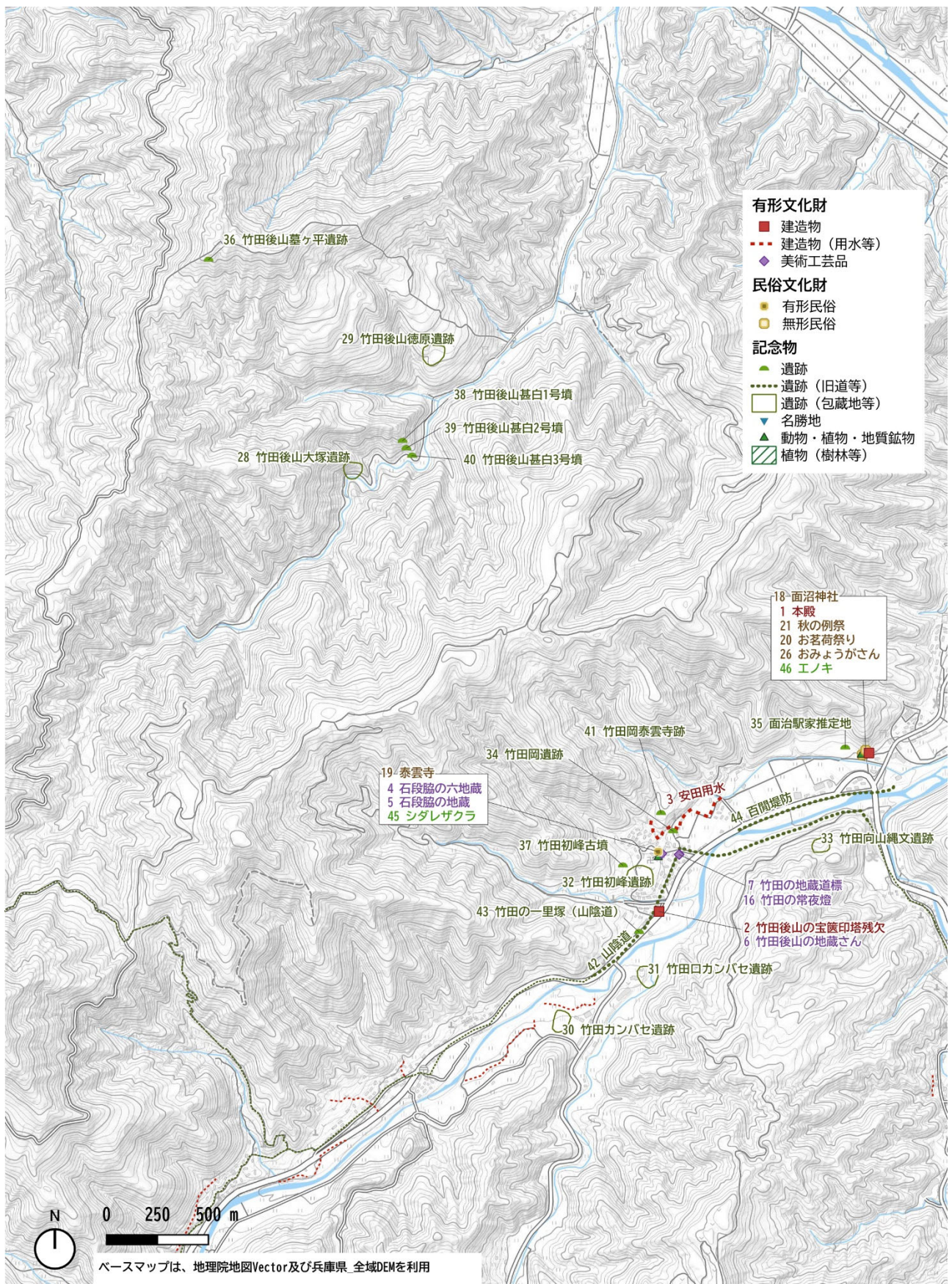
お茗荷祭り(面沼神社)



泰雲寺のシダレザクラ

※人口・世帯数は住民基本台帳(令和5年4月現在)による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

4-07 竹田

文化財の一覧

■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
建築物	1	面沼神社本殿	延宝2年(1674)に淡路の浦大工によって建てられた二間社の本殿で、この地方の他の神社と別系統の細部をもっている。
石造物	2	竹田後山の宝篋印塔残欠	村南方の村はずれのコンクリートブロックに囲まれて立つ地蔵さんの左後方に置かれている。宝篋印塔の相輪。
工作物・ その他の 構造物	3	安田用水	近世以前のかかなり古くに築造された水路。水路延長 700m、灌漑面積 11.62ha。取入口は岸田川。

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要	
彫刻	4	泰雲寺石段脇の六地藏	150×40cmの石像6体。境内へ登る階段の途中に建てられている。中央の地藏を挟んで左右に3体ずつ配置。	
	5	泰雲寺石段脇の地藏	六地藏の中央に位置する石像。境内へ登る階段の途中に建てられている。	
	6	竹田後山の地藏さん	62×45cmの石像(地藏像)。村南方の村はずれにコンクリートブロックに囲まれて立っている。	
	7	竹田の地藏道標 (1850年建立)	地藏尊の台石に「左いなば道」「みぎ京・ゆ村みち、すぐはま坂道」などと三面に刻む。嘉永3年(1850年)建立。かつては北側の交差点に位置していたが、現在はグラウンド隅に移動されている。50×50.5×52cm(地藏高38cmで、地藏の頭部は失われている)。	
	8	泰雲寺の韋駄天	泰雲寺堂内の8体の木像の一つ。40×18cmの韋駄天像。庫裏の玄関にある。年代は不明。	
	9	泰雲寺の釈迦如来	泰雲寺堂内の8体の木像の一つ。本堂中央の本尊。年代は不明。	
	10	泰雲寺の達磨大士	泰雲寺堂内の8体の木像の一つ。80×50cmの達磨大士像。	
	11	泰雲寺の聖観音	泰雲寺堂内の8体の木像の一つ。40×30cmの聖観音像。千原の少林庵所有のもの。	
	12	泰雲寺の阿弥陀如来	泰雲寺堂内の8体の木像の一つ。50×35cmの阿弥陀如来像。	
	13	泰雲寺の大権(エンマ)	泰雲寺堂内の8体の木像の一つ。80×55cmの大権(エンマ)像。	
	14	泰雲寺の地藏菩薩	泰雲寺堂内の8体の木像の一つ。60×25cmの地藏菩薩像。	
	15	泰雲寺の出山佛	泰雲寺堂内の8体の木像の一つ。25×15cmの出山佛。	
	工芸品	16	竹田の常夜燈 (1843年建立)	太神宮・愛宕山・秋葉山を刻む天保14年(1843)建立。かつては北側の交差点に位置していたが、現在はグラウンド隅に移動されている。
	古文書・ 歴史資料・ 考古資料	17	竹田後山栃谷山論裁許状 及び絵図面	竹田後山栃谷村山論は、過去4回にわたって法廷で争われてきた。1回目は寛永年間(1624~1645)の家光の時代、2回目は豊岡藩の時代、3回目は延享年間(1744~1748)八代将軍吉宗の時代、4回目は明治11年(1878)に神戸裁判所で争われてきた。竹田後山と栃谷村の山論に関し、江戸評定所に出訴し、同評定所より下付された正本であり、裏面に絵図面が書かれている。明治11年に神戸裁判所で絵図面のとおりに結審した。山論自体はめずらしくないが旧温泉町で江戸の評定所まで出訴した例はこれだけである。学術的にも歴史的にも価値の高いものである。 町指定文化財

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	18	面沼神社	文化3年(647)に鎮座したことが延喜式神明帳に記載されている。往時は米持大明神といていたが、明神号を廃するようになってから、面沼神社と改称した。二方郡の総社として、古来尊崇された神社で、明治6年(1873)10月に郷社に列せられた。主神は美尼布命。
	19	泰雲寺	京都嵯峨の臨済宗天竜山の属する禅刹。田井の楞嚴寺の南溟禪師を拝詔して鎌倉時代末期に開山した。もとは長福寺と称し、元の寺地は釈迦堂(竹田字岡)にあったが、元禄13年(1700)4月8日に現在地に移し、寺名を泰雲寺と改めた。本尊は釈迦如来(座高40cm)、右に達磨大師、左に大元様が安座されている。

■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・民俗芸能	20	お茗荷祭り(面沼神社)	毎年2月11日午前6時頃から、面沼神社で行われる。普通4月頃に生える茗荷が、この地に限って2月11日(旧暦1月7日)を境に生えるという但馬七不思議の一つで、宮司が境内の「めぬ池」という小さな池の中央にある小島に生えた茗荷を3本取り、池の水で清め、神前に供える。参拝者は、その茗荷の芽の形や大きさ、色ぐあいなどの成長状況でその年の吉凶状況を占う。昔は女人禁制で裸参りもあり、他の村からの来客もあったが、現在では、関係者のみの神事となっている。
	21	面沼神社秋の例祭	10月1日に面沼神社で行われる。秋の収穫に感謝し、神事により神霊を榊に移し、氏子の家々を巡行し(榊巡行)、神と村人が共に祭りを楽しむ。田の神に感謝し、村の発展、安寧、村人の無病息災を祈願する祭り。
民間説話・俗信	22	大岡さばきの話	※『但馬・温泉町の民話と伝説』(昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行) p43 参照
	23	坂本屋敷	※『但馬・温泉町の民話と伝説』(昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行) p44 参照
	24	魔術者	※『但馬・温泉町の民話と伝説』(昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行) p153 参照
	25	村のはじまり (村の地名) - 竹田 -	※『但馬・温泉町の民話と伝説』(昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行) p175 参照
	26	おみょうがさん	※『但馬・温泉町の民話と伝説』(昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行) p142 参照
	27	竹田村境の話	※『但馬・温泉町の民話と伝説』(昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行) p163 参照

■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
散布地・集落跡・生産遺跡等	28	竹田後山大塚遺跡	弥生時代の散布地。直径10m×14mに川石を敷く。土器片数点出土。林道工事と土取りで破壊。
	29	竹田後山徳原遺跡	縄文時代の散布地。果樹園内より縄文土器の土器片を採集。
	30	竹田カンバセ遺跡	温泉高校西側の水田。古墳時代の土器多数が散布。
	31	竹田口カンバセ遺跡	岸田川と照来川に挟まれた地点。古墳時代の土器が散布。
	32	竹田初峰遺跡	縄文時代～中世の遺物が多量に散布している。
	33	竹田向山縄文遺跡	縄文時代の散布地。果樹園開墾に際して、焼土、木炭片とともに打製石斧が出土したという。
	34	竹田岡遺跡	古墳時代～中世の遺物が散布している。

4-07 竹田

分類	番号	名称	概要
散布地・ 集落跡・ 生産遺跡等	35	面治駅家推定地	丘陵裾から奈良～平安時代の須恵器片が出土しているが、遺構は検出されていない。古代山陰道の但馬最後の駅である面治駅に比定されている。遺跡付近の面沼神社は、明治初年に新たに付けられた名称で、近世には「米持の宮」「米持大明神」と書かれ、かつては駅名と同じ「メジ」であった。現在も神社境内の小字は「米持」、その前の平坦地の小字は「米地ノ前」である。
古墳・ その他の墓	36	竹田後山墓ヶ平遺跡	古墳時代後期の古墳（経塚）。直径3m、高さ1.5mの円墳状、径20～30cmの川石を敷く。地表下2mに巨石あり。
	37	竹田初峰古墳	古墳時代の古墳。直径7～8mの小円墳。
	38	竹田後山甚白1号墳	古墳時代後期の古墳。直径5～6mの小円墳が3基並ぶうちのひとつ。道路工事で消滅。
	39	竹田後山甚白2号墳	古墳時代後期の古墳。直径5～6mの小円墳が3基並ぶうちのひとつ。
	40	竹田後山甚白3号墳	古墳時代後期の古墳。直径5～6mの小円墳が3基並ぶうちのひとつ。土取りで消滅。
城館跡・ 寺社跡	41	竹田岡泰雲寺跡	中世～近世の寺院跡。平坦な尾根の先端近い畑に中近世の遺物が散布している。
街道・古道等	42	山陰道	古代山陰道のルートは、村岡から春來峠を越えて伊角・熊谷を通って井土に出て、その後、岸田川沿いを西へ向かい、蒲生峠を越えて因幡国に入るルートが有力と考えられており、ほぼ現在の国道9号に該当する。律令時代の官衙遺跡は井土に集中し、中でも古代山陰道の「面治駅」は竹田の面沼神社付近とされる。
	43	竹田の一里塚	山陰道の一里塚。元禄の「但馬国絵図」では、岸田川と照来川の合流点、旧温泉高校の対岸付近に一里塚が描かれている。
その他の遺跡 (跡地・ 伝承地等)	44	百間堤防	明治33年(1900)の地形図には、約1kmにおよぶ護岸堤防が図化されている。現在は全てブロックになっているが、明治中期に長い年月をかけて石積みし、これを「百間堤防」と呼んで地方の名所的存在であった。

■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
植物	45	泰雲寺のシダレザクラ	樹齢は約250年(推定)とされ、近年は雪などによって枝が損傷することもあり、一時の生気はやや衰えつつあるが、4月中・下旬には見事な花を咲かせ地元の住民が大切に見守っている。ソメイヨシノに先立って開花するエドヒガンのしだれ性品種のイトザクラ。京都の天龍寺から移植されたと言われるもので、一般のシダレザクラは満開になると白くなるが、泰雲寺のシダレザクラは花の色が濃く優雅な姿を見せてくれる。また、幹廻りでは、西日本一の大きさを誇る。 県指定天然記念物
	46	面沼神社のエノキ	面沼神社境内のエノキ。環境省巨樹巨木データベースによると、幹周3.32m、樹高20m。

